

文学・文化

川崎寿彦著

庭のイングランド

—風景の記号学と英国近代史—

A5 判・386 頁・4,500 円

〈庭〉の歴史の変遷は、感性の歴史と深くつながっている。かつて〈庭〉が伝えた詩的・文明的・政治的メッセージは、近代市民社会の成立とともに大きく変貌していった。本書は、17、18 世紀の英国文学に描かれた庭園の暗喩機能の変遷をたどり、近世ヨーロッパの感性を刳抉する。

〔1983〕978-4-8158-0330-8

名古屋大学国語国文学会編

国語国文学論集

〔品切〕A5 判・730 頁・15,000 円

本書は、昭和 31 年以来 27 年の長きにわたり名古屋大学で国語国文学を講じ、数々の業績を残した後藤重郎教授の停年退官記念論集。名古屋大学国語国文学会員 50 名によって、万葉集から現代国語に至るまでの国語国文学上の様々な問題が様々な角度から論じられている。

〔1984〕978-4-930689-14-6

加藤さだ著

英文学植物考

〔品切〕A5 判・470 頁・5,800 円

本書は、わずか 84 行の詩の中に 83 種類もの植物を歌い込んだ桂冠詩人 R. ブリッジズの「仇し花」に始まり、W. ブラウン、F. ペーコン、シェイクスピア、ミルトン、キーツなどイギリスの詩や小説にとりあげられた様々な植物を詩情豊かに考察する。植物図版 160 点を収録。

〔1985〕978-4-930689-31-3

Marie-Agnès Morita-Clément 著

南山大学学術叢書

L'Image de l'Allemagne dans le roman français de 1945 à nos jours

菊判・350 頁・4,000 円

本書『1945 年以降のフランス小説におけるドイツ像』は、第二次大戦以降に書かれたフランスの純文学小説 200 編以上の中から、ドイツに関する記述を選び、フランス小説に描かれたドイツ像を比較・考察する。アカデミー・フランセーズ文学賞受賞

〔1985〕978-4-930689-29-0

David R. Mayer 著

南山大学学術叢書

The American Neighborhood Novel

菊判変型・180 頁・3,000 円

アメリカ文学は、作家の人種的・宗教的出身の多様さを反映して多彩で力強い。本書は、このように豊かなアメリカ文学を Neighborhood Novel という視角から考察した異色の文学論。歴史的、宗教的、社会的に様々な角度からの考察によって、アメリカとはアメリカ人とは何かに迫る。

〔1986〕978-4-930689-43-6

松村博司／進藤義治／田島毓堂共編

栄花物語語句索引

—付属語篇並に語構成別綴字逆配列語彙—

A5 判・540 頁・10,000 円

第一部付属語篇は、松村博司著『栄花物語全注釈』（角川版）の姉妹篇として助詞・助動詞・補助動詞を取める。第二部構成別綴字逆配列語彙は、自立語篇の見出語に含まれる語構成要素からの検索のためと、漢字一字索引の用途をもつものとして作成。国文学研究者必携の書。

〔1986〕978-4-930689-51-1

萩野昌利著

南山大学学術叢書

暗黒への旅立ち

—西洋近代自我とその図像 1750～1920—

〔品切〕A5判・502頁・5,200円

〔1987〕978-4-930689-64-1

高木文雄著

漱石漢詩研究資料集

—用字用語索引・訓讀校合—

A5判・260頁・7,000円

漱石は、青年時代から晩年まで全生涯に208首の漢詩を作っている。本書はこの208首の全漢詩より用語用字の頻度を調べ、漱石に関する既刊文献の訓讀を校合する。漱石理解の鍵ともいわれる漢詩解明のための資料集成であり、漱石研究に新しい光を投ずる。漱石研究者必携の労作。

〔1987〕978-4-930689-53-5

高橋 亨著

物語文芸の表現史

A5判・380頁・3,500円

物語文芸の表現はどのように生成・変換してきたのか。『竹取物語』から『宇津保物語』を経て『源氏物語』に至る平安朝の物語文学の生成を、『万葉集』や『古今集』の歌ことば、口承・歌謡文芸や芸能等、より広い物語状況との響きあいの中からあぶり出す。気鋭による斬新な物語論。

〔1987〕978-4-930689-74-0

訳者代表 國本哲男／山口巖／中条直樹

ロシア原初年代記

〔品切〕A5判・640頁・10,000円

ノアの洪水からキエフ公国の成立まで、最も輝けるロシア世界を神話や聖者伝、フォークロア等を集成して描いたロシア最大の古典の完全訳。わが国の古事記にも比すべき叙事文学の傑作にして一級の歴史文献である。多数の挿絵と詳細な訳注。

日本翻訳出版文化賞受賞

〔1987〕978-4-930689-75-7

川崎寿彦編

イギリス・ロマン主義に向けて

—思想・文学・言語—

〔品切〕A5判・504頁・5,000円

〈イギリス・ロマン主義〉は西欧近代文芸思潮の一大源泉である。本書は、わが国のコールリッジ研究の泰斗として、このロマン主義思潮の解明に専念した加藤龍太郎氏縁故の研究者が、ロマン主義に向けて流れ入るヨーロッパ文芸思潮にとりくんだロマン主義研究の最前線報告。

〔1988〕978-4-8158-0100-7

田中秀央著

ラテン文學史〔覆刻〕

〔品切〕A5判・368頁・5,000円

本書は、40年以上前に書かれたものであるが、(1)記述が明快でリーダブルであり、(2)狭い意味の文学のみならず、歴史、法律、哲学と広い分野をバランスよく取り扱っている点で、ヨーロッパ文学を志す人々にとって今なお通史としての役割を十分に果たすだろう。

〔1989〕978-4-8158-0114-4

ウィリアム・ブレイク著 梅津濟美訳

ブレイク全著作

菊判・1512頁・24,000円

詩人・思想家・画家としてその評価のいや増す近代イギリスの生み出した巨人ウィリアム・ブレイク。本書はその全作品の世界に先駆ける訳者畢生の個人訳。カラー図版多数を収録してこの宇宙的感覚の表現者の全貌を明らかにする。日本翻訳出版文化賞受賞

〔1989〕978-4-8158-0113-7

川崎寿彦／木谷勤編

生と死の文化史

—危機の生・豊饒の生—

〔品切〕四六判・206頁・1,800円

分断されてトータルなイメージを失った生と死の問題に、英文学（川崎寿彦）・インド哲学（立川武蔵）・考古学（渡辺誠）・日本文学（山下宏明）・西洋哲学（山田弘明）・西洋史学（木谷勤）の六つの角度から光をあてて、ライフ・サイクルの豊かな像を回復する。

〔1989〕978-4-8158-0118-2

エドワード・ベリー著 岩崎宗治／山田耕土／滝川陸訳

シェイクスピアの人類学

—喜劇と通過儀礼—

〔品切〕A5判・320頁・3,800円

Edward Beryy, *Shakespeare's Comic Rites*, 1984 の全訳。エリザベス朝の社会慣習と未開社会の通過儀礼を見通す歴史人類学的コンテクストからシェイクスピアのロマンティック・コメディを解説。イギリス・ルネサンス期における思春期の姿が生きて蘇える。

〔1989〕978-4-8158-0119-9

藤井淑禎著

不如歸の時代

—水底の漱石と青年たち—

四六判・290頁・2,800円

戦争と結核と失恋による喪失感という外と内の暴風雨に挟撃されて恐怖と不安の中から美しい幻夢の世界を紡ぎ出していった明治30年代青年層の精神風景を、初期漱石、寅彦、三重吉、折蘆等の作品の丹念周到な解説を通じて、あざやかに浮かび上がらせる力作評論。

〔1990〕978-4-8158-0133-5

川崎寿彦著

英詩再入門

〔品切〕四六判・256頁・2,500円

イエイツ、パウンド、T. S. エリオットなど20世紀英米詩の稜線を形づくった詩人の作品より各一篇を選び出し、プロットの流れ・韻律形式の分析からイメージの解説を通じて、難解と言われる現代詩の面白さを再認識させる実践的講義。他に「英詩のイメージ空間」、「英詩の深層構造」。

〔1990〕978-4-8158-0148-9

川崎寿彦著

薔薇をして語らしめよ

—空間表象の文学—

A5判・358頁・5,500円

〈薔薇〉と〈カントリー・ハウス〉を主題に、文学における空間イメージの暗喩機能＝トポスの変遷をたどり、ヨーロッパ文学史の転変を抉出した諸篇をはじめ、イギリス17世紀の形而上詩人から芭蕉、漱石、川端まで、東西の文学を明敏な批評意識をもって論じた希有な英文学者の遺稿集成。

〔1991〕978-4-8158-0161-8

フランツ・グリルパルツァ著 佐藤自郎訳

グリルパルツァ自伝

—付／一八四八年・革命の思い出—

〔品切〕四六判・308頁・2,800円

近代オーストリア最大の劇作家グリルパルツァ。自らを語ることの少なかった彼の遺稿中より発見された本自伝は、古典主義演劇、ウィーン民衆劇等さまざまな要素を融合し、独自の戯曲様式を創出した彼の人と作品を伝えるのみならず、19世紀ウィーン精神の一面をも彷彿とさせるであろう。

〔1991〕978-4-8158-0169-4

フランチェスコ・ペトラルカ著 池田廉訳 古典翻訳叢書

ペトラルカ カンツォニエーレ

—俗事詩片—

菊判・818頁・12,000円

本書は、ヨーロッパの詩的伝統に屹立し、その感情の様式を決定した屈指の古典の、わが国で初めての全訳であり、訳者苦心の訳文と語釈・影響関係等にわたる詳細な訳注によって、その言葉の奥行きと世界的な広がりとを余すところなく伝える読書界待望の労作である。日本翻訳文化賞受賞

〔1992〕978-4-8158-0184-7

鈴木勝忠著

日本生命財団出版助成図書

近世俳諧史の基層

—蕉風周辺と雑俳—

A5判・618頁・12,000円

蕉風中心の俳諧史観を以て事足りりとせず、頂点を支えた底辺をも掘り起こし、重層的な俳諧史の全体像に迫った画期的労作。従来殆ど顧みられなかった雑俳をはじめ、江戸座から美濃派等の地方俳諧、さらには俳諧伝書類等をも再評価、俳諧史上に正当に位置づける。**文部大臣奨励賞受賞**

[1992] 978-4-8158-0193-9

佐藤深雪著

綾足と秋成と

—十八世紀国学への批判—

四六判・302頁・3,200円

真淵門下の異才の国学者、建部綾足と上田秋成の小説作品——『本朝水滸伝』および『春雨物語』——を、宣長との対抗関係において読みとき、『伊勢』『源氏』から日本浪漫派・折口信夫にいたる射程のなかで、18世紀における言語革新の契機をさぐった野心作。

[1993] 978-4-8158-0200-4

山下宏明著

平家物語の成立

A5判・366頁・6,500円

『平家物語』研究の第一人者が、最近の本文批判の研究成果を踏まえながら、新たに表現論的観点を導入し、テキストの古態と変遷を、それぞれの成立圏をも射程に入れて考察。多様なテキストの素性と表現の中から立ち現れる、動態としての物語の成り立ちを明らかにする。

[1993] 978-4-8158-0205-9

森田勝昭著

鯨と捕鯨の文化史

A5判・466頁・3,800円

鯨は人間にとって重要な生活財であると同時に、その巨体はいつの時代にも人の心を魅了し、意味の産出を促す「文化的」存在でもあった。本書は、捕鯨活動400年の歴史を通じて、東西の捕鯨文化を浮彫りにするとともに、自然と人間の関係を鋭く問い直した力作である。**毎日出版文化賞受賞**

[1994] 978-4-8158-0237-0

佐々木英昭著

「新しい女」の到来

—平塚らいてうと漱石—

四六判・378頁・2,900円

死と神秘の世界を透視した“過剰”なる女の生に分け入り、そのフェミニズムの核心に触れるとともに、奇妙な心中未遂事件——煤煙事件——を通して、このらいてうと接点遭遇した漱石の、“解積小説”『こゝろ』に到る女性像と小説作法の変転を解説する。**日本比較文学会賞受賞**

[1994] 978-4-8158-0243-1

福田真人著

結核の文化史

—近代日本における病のイメージ—

四六判・440頁・4,500円

明治維新以降1千万人以上の犠牲者を出すという苛酷な現実の一方で、『不如歸』に代表される小説等に描かれ、「上流」「天才」「美人」といった甘美なイメージを喚起した結核という独特な病の、近代日本における文化的位相を、史資料の博搜によって描き出した力作。**毎日出版文化賞受賞**

[1995] 978-4-8158-0246-2

ピーター B. ハーイ著

帝国の銀幕

—十五年戦争と日本映画—

A5判・524頁・4,800円

戦時下、人々は映画に何を見たのか？ 全体主義統制下の映画産業と創造性のあり方を凝視するとともに、「文化」映画、「ヒューマンイズム」戦争映画、精神主義映画等、戦争プロパガンダ映画の発展を通して「大日本帝国」の戦争と社会を鮮やかに描く。**アメリカ映画・メディア学会賞受賞**

[1995] 978-4-8158-0263-9

佐々木英昭編

異文化への視線

—新しい比較文学のために—

A5判・296頁・2,600円

日本人は神秘的？ それとも猿？ 人が〈他者〉に注ぐ視線はどのように形成されたのか。その歴史性に潜むオリエンタリズム—西洋（男性）中心主義と現代のポストコロニアルの状況を最新の知で脱構築し、人種・国境・ジェンダーに囚われない真の国際人のための文学・文化論を提示。

〔1996〕978-4-8158-0282-0

吉田 城著

神経症者のいる文学

—バルザックからブルーストまで—

四六判・358頁・3,500円

神経症をめぐって次々に生み出される作品。何が追求されているのか。神経症はどのように捉えられてきたのか。フランス近代文学の骨格を形作った神経症の文学を、当時の医学的言説を参照点に丹念に読み解き、時代において、また作家の想像力によって神経症が持った意味を明らかにする。

〔1996〕978-4-8158-0294-3

稲賀繁美著

絵画の黄昏

—エドゥアール・マネ没後の闘争—

A5判・474頁・4,800円

これまで近代絵画史の分水嶺と見なされてきたエドゥアール・マネをめぐるスキヤングルの再検討を通じて、絵画と批評、美学と政治学が交錯する地点で「近代藝術」の成り立ちそのものを問い直す。**サントリー学芸賞、渋沢・クロード賞 LVJ 特別賞、倫雅美術奨励賞受賞**

〔1997〕978-4-8158-0300-1

湯浅信之訳

ジョン・ダン全詩集

A5判・734頁・9,500円

彼は「思想を感覚的に把握する」ことができたという T. S. エリオットの再評価以来、ダンの名はイギリス文学の中に揺るぎない位置を占めている。本書は、「魂の修辞」を駆使したこの「形而上詩人」の全詩業を、機敏な日本語で現代に甦らせた訳者多年の労作である。**日本翻訳文化賞受賞**

〔1996〕978-4-8158-0302-5

牛島信明著

スペイン古典文学史

A5判・430頁・4,500円

セルバンテスを擁する黄金世紀を中心に、今なお読者を挑発しつづけるスペイン文学の精華を、第一人者が過不足なく論じたリーダブルな文学史。征服記や神秘主義文学もカバーする他、比較史的観点をも取り込み、また三宗教が共存する特異な中世をもったスペイン社会からの史的把握を行う。

〔1997〕978-4-8158-0306-3

坪井秀人著

声の祝祭

—日本近代詩と戦争—

A5判・432頁・7,600円

日本の近代詩を〈声〉と〈書くこと〉の相克の歴史として捉え直し、戦争詩の示す表現の必然性を、朗読やラジオ放送に関わる豊富な新資料とともに明らかにした画期的労作。CD「戦争詩朗読放送の記録」を付録として収める。**日本比較文学会創立 50 周年記念大賞受賞**

〔1997〕978-4-8158-0328-5

飯田祐子著

彼らの物語

—日本近代文学とジェンダー—

四六判・328頁・3,200円

文学はどのようにして「男の仕事」となったのか。近代文学が自立してゆく過程は、文学という領域がジェンダー化してゆくプロセスでもあった。本書は、ホモソーシャルな読者共同体の成立にいたるこの転換を鮮やかに描き出すとともに、そこにおける漱石テクストの振る舞いを精緻に分析。

〔1998〕978-4-8158-0342-1

阿部泰郎著

湯屋の皇后

—中世の性と聖なるもの—

四六判・404頁・3,800円

湯施行する皇后の姿が意味するものは何か。女人禁制と推参する女、あるいは慈童説話の本質とは。性による疎隔や媒介の亀裂に垣間見られる〈聖なるもの〉を求めて、生成変化する中世の物語・説話、縁起・伝承、図像・芸能の奥深い森に分け入り、その深層の構造を明らかにする。

[1998] 978-4-8158-0346-9

稲賀繁美著

絵画の東方

—オリエンタリズムからジャポニスムへ—

A5判・484頁・4,800円

西欧近代美術の外部に排除された広大な領域と、内部に取り込まれた諸要素との臨界を検証し、透過と拒絶のメカニズム、および諸要素の意味と運命を、ドラクロワからゴッホ、ゴッガン、マティスへ、卓抜な読みと縦横な論理をもって描き出した労作。**和辻哲郎文化賞受賞**

[1999] 978-4-8158-0365-0

S. オーゲル著 岩崎宗治／橋本恵訳

性を装う

—シェイクスピア・異性装・ジェンダー—

A5判・246頁・3,600円

異性装の少年俳優、男のような女たち、衣装のフェティシズム——近代初期英国の演劇と社会におけるジェンダー構築と主体形成の揺らぎを、当時の劇作品のみならず、医学書、パンフレット、法廷記録、肖像画などの資料を駆使して、性のパフォーマンスの視点から縦横に論じた前衛的研究。

[1999] 978-4-8158-0367-4

伊東史朗著

日本生命財団出版助成図書

平安時代彫刻史の研究

A4判・328頁・12,000円

本書は、仏教思想や美意識の変遷とともに唐風から和様へと展開していく平安時代の彫刻を、多様な立場と個性を持った仏師・流派や成立背景にも踏み込みながら、個々の仏像に即して丹念かつ具体的に考察、近年発見の新資料も数多く取り入れ、その多面的な広がり进行を明らかにする。

[2000] 978-4-8158-0379-7

稲賀繁美編

異文化理解の倫理にむけて

A5判・354頁・2,900円

本書は、文化摩擦をなくすためのノウハウを提供するのではなく、むしろ摩擦にこそ価値を見出し、異なる価値観のせめぎ合う臨界を見定め思考していく知性を養うために、その触媒となる経験を気鋭の研究者らが自らの専門研究と交差させつつ提示、読者を問題発見・探究へと誘う。

[2000] 978-4-8158-0381-0

谷田博幸著

極北の迷宮

—北極探検とヴィクトリア朝文化—

四六判・368頁・3,800円

19世紀、近代的な装備の下、英国は北極探検をリードした。本書は、従来極地を舞台とした栄光と挫折の物語として探検史の文脈でしか語られることのなかった或る失踪事件を、新たに社会的想像力の問題として捉え直すことによって、ヴィクトリア朝の文化と文明意識を鮮やかに描き出す。

[2000] 978-4-8158-0395-7

イヴ・K. セジウィック著 上原早苗／亀澤美由紀訳

男同士の絆

—イギリス文学とホモソーシャルな欲望—

A5判・394頁・3,800円

シェイクスピアからディケンズにいたるイギリス文学の代表的テキストを読み解くことによって、近代における欲望のホモソーシャル／ヘテロセクシュアルな体制と、その背後に潜む「女性嫌悪」「同性愛恐怖」を掘み出し、文学・ジェンダー研究に新生面を拓いた画期的著作。

[2001] 978-4-8158-0400-8

藤井淑禎著

小説の考古学へ

—心理学・映画から見た小説技法史—

四六判・292頁・3,200円

ツバタナ・クリステワ著

涙の詩学

—王朝文化の詩的言語—

A5判・510頁・5,500円

石川九陽著

日本生命財団出版助成図書

日本書史

A4判・632頁・15,000円

ルドヴィコ・アリオスト著 脇功訳

アリオスト 狂えるオルランド

菊判・1050頁・12,000円

阿部泰郎著

聖者の推参

—中世の声とヲコなるもの—

四六判・438頁・4,200円

岩崎宗治著

シェイクスピアの文化史

—社会・演劇・イコノロジー—

A5判・340頁・4,800円

松澤和宏著

生成論の探究

—テキスト・草稿・エクリチュール—

A5判・524頁・6,000円

明治40年前後における小説技法の革命的転換を、グローバルかつ領域横断的な目配りによって考古学的に跡づけた労作。特に心理学・映画からの理論上・技法上の影響を中心に、小説技法成立史上まれに見る百花斉放期を、同時代読者の読みに即して描き出す。

[2001] 978-4-8158-0401-5

平安朝の袖はなぜ涙に濡れているのか? 『古今集』から『新古今集』にいたる八代集を、〈袖の涙〉のメタファーを軸に、イメージの連鎖・言葉のネットワークの展開過程を辿ることによって読み解き、〈涙〉のメタ喩的な役割と王朝文化における詩的言語の卓越した位置を明らかにする。

[2001] 978-4-8158-0392-6

東アジアの文化の根底をなす書は、「弧島」の舞台でいかなる劇を繰り広げたのか? 書を筆蝕の美学と捉える視点から、古代より明治初年までの代表的作品に定着された精神の軌跡を、その表現に即して解明しつつ日本書史の基本像を提示した、著者のライフワーク。毎日出版文化賞受賞

[2001] 978-4-8158-0405-3

本書は、爛熟するルネサンスの想像力が生んだ驚嘆の一大叙事詩であり、悲劇的でありつつもコミカルで、抒情的でありながらも勇壮な——当時のヨーロッパ文学を完成の極致にまで高めた——めくるめく恋と冒険の物語である。日本翻訳文化賞、ピーコ・デッラ・ミランドラ賞受賞

[2001] 978-4-8158-0407-7

音高く呼ばい〈聖なるもの〉を現し出す声、あるいは〈ヲコなるワザ〉とともに哄笑、反語する笑い。——「遊者」から後白河院、花山院、文覚等にいたるまで、宗教と芸能、王権と物語のあわいに立ち「推参」する者の姿を通して、中世社会を動かす深層のダイナミズムを踏破した労作。

[2001] 978-4-8158-0419-0

初期近代イングランド文化のなかのシェイクスピア——セクシュアリティ、社会変動、民衆文化、個人主義、宗教改革などのテーマを取り上げ、同時代の文献や図像に隠された重層的な意味の解読を通して、さまざまな力が干渉し合うダイナミックな場としてシェイクスピア劇をとらえる。

[2002] 978-4-8158-0439-8

作品への途上で言葉に生じた数々の〈事件〉——漱石から賢治にいたる日本近代文学、フローベールをはじめとする西洋文学や言語学者ソシュールの草稿を読み解くことを通して、〈書くこと〉とは何かを問い、その深淵に明滅する豊饒な複数性を明るみに出した労作。宮沢賢治賞奨励賞受賞

[2003] 978-4-8158-0463-3

牛島信明編訳

スペイン黄金世紀演劇集

A5 判・522 頁・6,000 円

ヨーロッパ演劇史の最高峰をなすスペイン黄金世紀の絢爛たる夢幻世界——ゲーテに「ボエジーがこの世からすべて失われてしまってもカルデロンから再生できよう」と言わせた『人生は夢』の作者をはじめ、〈自然の怪物〉ロベ・デ・ベエガ、セルバンテス、ティルソらの豊饒たる作品群。

[2003] 978-4-8158-0464-0

富山太佳夫著

文化と精読

—新しい文学入門—

四六判・420 頁・3,800 円

いま文学を読むとは何か？ フェミニズムから歴史と文化の理論にいたる批評の焦点を明晰に解説し、小説の成立、センチメンタリズム、ユートピア小説、植民地と教養、農村と「敬老」の文学など、大胆かつ精緻なテキストの読みを実践。知の興奮に満ちみちた新しい文学入門の誕生！

[2003] 978-4-8158-0467-1

有田英也著

政治的ロマン主義の運命

—ドリユ・ラ・ロシュルとフランス・ファシズム—

A5 判・486 頁・6,500 円

第一次大戦の経験からヨーロッパ統合を構想し、やがて自らファシストを宣言するにいたった作家ドリユ・ラ・ロシュル。ナショナリズム、身体文化、モダニズム、反ユダヤ主義など、時代のコンテキストの中でドリユ作品を捉えるとともに、ファシズム生成の論理を内在的に描きだした力作。

[2003] 978-4-8158-0468-8

田中貴子著

『溪嵐拾葉集』の世界

A5 判・298 頁・5,500 円

天台宗の『百科全書』とも言われる『溪嵐拾葉集』は、仏教教理のみならず多くの説話や巷説、和歌を含み、中世の思想・文学・歴史の一大資料となっている。その作者・諸本・成立背景等を明らかにするとともに、説話の場に光をあて、同書を結節点とする中世文化のネットワークに迫る。

[2003] 978-4-8158-0472-5

フランチェスコ・ベトラルカ著 池田廉訳

ベトラルカ 凱旋

A5 判・344 頁・4,800 円

ルネサンスを先導した詩的知性の結晶——古代ローマ世界から人間精神の規範を汲みとり、キリスト教信仰と融合させつつ、ヨーロッパの知的宇宙の全体をアレゴリカルな叙事詩に形象化、西洋の文学・芸術に絶大な影響を及ぼした、イタリア・ルネサンスの金字塔。鏤骨の訳文と詳細な訳注。

[2004] 978-4-8158-0488-6

谷田博幸著

唯美主義とジャパニズム

A5 判・402 頁・5,500 円

モダニズムの軛を解き放ち、ロセッティ、ホイットスラー、レイトン、ムア、アルマ・タデマ、ラスキンらの仕事をヴィクトリア朝の社会と文化の中で捉えるとともに、日本美術に対する熱狂のさまを実証的に明らかにすることによって、あらためて英国美術の近代性を問い直した労作。

[2004] 978-4-8158-0493-0

宮下規久朗著

カラヴァッジョ

—聖性とヴィジョン—

A5 判・450 頁・4,800 円

血と暴力に彩られた破滅的な生涯を送りながら、深い精神性と宗教性をたたえた作品によって時代を越えて人々の心を打つカラヴァッジョ。幻視のリアリズムを実現した「呪われた画家」の芸術の本質に迫る、わが国初の本格的研究。サントリー学芸賞、地中海学会ヘレンド賞受賞

[2004] 978-4-8158-0499-2

アダム・スミスの会監修 水田洋／松原慶子訳

アダム・スミス 修辞学・文学講義

四六判・428頁・4,200円

齋藤希史著

漢文脈の近代

—清末＝明治の文学圏—

A5判・338頁・5,500円

坪井秀人著

感覚の近代

—声・身体・表象—

A5判・548頁・5,400円

ジャコモ・レオパルディ著 脇功／柱本元彦訳

レオパルディ カンティ

A5判・628頁・8,000円

前野みち子著

恋愛結婚の成立

—近世ヨーロッパにおける女性観の変容—

A5判・428頁・5,600円

平川祐弘著

天ハ自ラ助クルモノヲ助ク

—中村正直と『西国立志編』—

四六判・406頁・3,800円

山口庸子著

踊る身体 of 詩学

—モデルネの舞踊表象—

A5判・390頁・5,200円

若きスミスが旧来の修辞学を排しつつ、平明な言語・文体による率直な人間関係としてのコミュニケーションの理論を構築しようとした幻の講義。道徳哲学での同感、法学での正義、経済学での価値と並んで、近代的個人の交流を文体から捉える。グラーズゴウ大学所蔵手稿に基づく新訳決定版。
〔2004〕978-4-8158-0500-5

19世紀後半から20世紀にかけて、かつてなく相互に交通しあった日本と中国——そこに生じた「漢文脈」の新たな展開と可能性を、書くことと読むことの場に即して捉え、文学史・小説・翻訳・作文などをめぐる様々な試み・思考・葛藤を通して、近代の再考を促す。サントリー学芸賞受賞
〔2005〕978-4-8158-0510-4

公と私のあわいに浮かびあがる〈感覚〉という問題系をとらえ、眼差す・触れる・嗅ぐことから歌い踊る身体まで、日本の近代化のなかで変容していく感覚表象を通じて、文学・映画・写真・歌謡・舞踊など様々な芸術を、文化的＝政治的文脈に再配置しつつ横断的に読み解く新たな批評の実践。
〔2006〕978-4-8158-0533-3

今のはや心よ黙せ……。ニーチェからカルヴィーノまで、また漱石から三島まで、多くの魂を共振させた近代イタリア最大の詩人レオパルディ。西洋文学の深い流れを汲んだ「思索する詩人」が、ペシミズムの極限に見出した世界とは。その詩と散文の代表作を、彫琢された日本語で見事に再現。
〔2006〕978-4-8158-0538-8

中世・ルネサンス時代には相容れないとされた恋愛と結婚を、直線的に結びつける眼差しが、近世都市社会の成立過程で誕生した。本書はこの眼差しが発展するあり様を、ラブレターを描き込んだオランダ風俗画、〈毀れ瓶〉の民衆歌、人生段階図など幅広い資料から領域横断的に跡づける。
〔2006〕978-4-8158-0546-3

明治最大のベストセラーとして日本産業化の国民的教科書となった『西国立志編』——近代日本の社会と文化に与えた巨大な影響を、翻訳者中村正直を軸に、丹念に跡づけるとともに、イタリア・中国などとの比較を通して、思想が文化の境を越えて運動する姿を立体的に描きだした労作。
〔2006〕978-4-8158-0547-0

新しく、根源的なもののイメージとしてのダンス。ダンカンら舞踊家たちと、ニーチェはじめ文学者たちとの交点で、全体性や聖性をめぐる思潮を捉え、20世紀に芸術や運動の一大結節点となった「踊る身体」の宇宙論的表象を読み解く。日本独文学会賞、日本ドイツ学会奨励賞受賞
〔2006〕978-4-8158-0550-0

岡田裕成／齋藤晃著

南米キリスト教美術とコロニアリズム

菊判・494頁・6,600円

植民地美術とは、征服の暴力とともに始まった、文化的他者の間の交渉の産物である。植民地的状況のダイナミズムに根ざした、その特異で複雑な美術のありようを、「混血・融合」の論理を超えて問い直す。現地調査に基づく新資料と多数の貴重な図版による、初の南米植民地美術論。

[2007] 978-4-8158-0556-2

ジェラルド・グローマー著

瞽女と瞽女唄の研究

菊判・研究篇 778頁・史料篇 958頁・30,000円（分売不可）

20年にわたる徹底的な史資料の調査によって実現した、瞽女と瞽女唄をめぐる初の本格的総合研究。日本各地に活躍した瞽女の社会的あり方を歴史的に明らかにするとともに、瞽女が携わっていた芸能と音楽を多角的に分析。小泉文夫音楽賞、東洋音楽学会田邊尚雄賞受賞

[2007] 978-4-8158-0558-6

栗須公正著

南山大学学術叢書

スタンダード 近代ロマネスクの生成

A5判・482頁・6,600円

「一章ごとに崇高が炸裂する」——フランス革命後の変動する社会のなかで、成長する新聞メディアから同時代の政治と社会の生態を貪欲に吸収し、恋愛心理と交錯させつつ生み出された、『赤と黒』や『バルムの僧院』など近代ロマネスクの世界。その形成原理を創造の現場から探る。

[2007] 978-4-8158-0560-9

高橋 亨著

源氏物語の詩学

—かな物語の生成と心的遠近法—

A5判・766頁・8,000円

和漢の複線の詩学を基底に、かな文字の誕生から和歌や初期物語を経て源氏物語に至るかな文芸の生成をたどるとともに、同化と異化が複合する語りの心的遠近法の視座から、言葉のあやが織りなす源氏物語の世界を、音楽や絵などの多様なテーマを包み込んで色彩豊かに読み解いた渾身の論考。

[2007] 978-4-8158-0565-4

C. ゴルドーニ著 齊藤泰弘訳

ゴルドーニ喜劇集

A5判・684頁・8,000円

18世紀イタリア演劇界を代表する喜劇作家ゴルドーニが描く、滑稽で愛らしい人間ドラマ。貴族、市民、庶民——あらゆる階層の人々が、ヴェネツィア社会を舞台に縦横無尽の活躍を繰り広げる。代表作『コーヒー店』ほか、本邦初訳作を中心に、味わい豊かな傑作群を収めた本格的選集。

[2007] 978-4-8158-0566-1

D. ボードウェル／K. トンプソン著 藤木秀朗監訳
飯岡詩朗／板倉史明／北野圭介／北村洋／笹川慶子訳

フィルム・アート

—映画芸術入門—

A4判・552頁・4,800円

この一冊で、きっと映画の見かたが変わる！——初期から近年までの世界中の映画を視野におさめ、映画の技法・スタイルを中心に、製作・興行、形式・ジャンル、批評・歴史にわたる映画芸術のすべてを、多数の図版とともに体系的に解説したアメリカで最も定評ある映画入門、待望の邦訳。

[2007] 978-4-8158-0567-8

藤木秀朗著

増殖するペルソナ

—映画スターダムの成立と日本近代—

A5判・486頁・5,600円

映画スターという現象はいかにして生まれ、日本の近代とどのように関わったのか。魅力の産出、アイデンティティの流通、消費者の支持のあり方とその変容を、イメージと言説とのせめぎあいの中で捉え、時代の社会的・文化的文脈から重層的に描いた、新しいフィルム・スタディーズの成果。

[2007] 978-4-8158-0573-9

林 洋子著

藤田嗣治 作品をひらく

—旅・手仕事・日本—

A5 判・598 頁・5,200 円

越境する創造者——。異文化を放浪して藤田が追い求めたものは何か。絵画のみならず、写真、映像、装丁、衣装など、その豊かな創作活動を徹底検証。評伝を超え、多数の図版掲載を実現して、作品から画家に迫る。サントリー学芸賞、渋沢・クロデル賞 LVJ 特別賞、日本比較文学会賞受賞
[2008] 978-4-8158-0588-3

ペドロ・カルデロン・デ・ラ・バルカ著 佐竹謙一訳

カルデロン演劇集

A5 判・516 頁・6,600 円

シェイクスピアにも比される、スペイン黄金世紀を代表する劇作家カルデロン——色彩渦巻く豊饒な世界は、バロック演劇の精華と言えよう。哲学劇『人生は夢』をはじめ、宗教劇・歴史劇・喜劇・名誉の悲劇等、人生の深淵をのぞかせる傑作を集めた初の本格的選集。
[2008] 978-4-8158-0597-5

ミツヨ・ワダ・マルシアーノ著

ニッポン・モダン

—日本映画 1920・30 年代—

A5 判・280 頁・4,600 円

大衆文化のつくり上げた近代——。日本の近代という比類ない「国民的」経験に、映画はどのように関わったのか。東京の都市空間、小市民映画ジャンル、近代スポーツ、女性映画、松竹蒲田調スタイルを焦点に、日本映画の最も魅力的な時代を重層的にとらえ、戦前の文化への視角転換を迫る。
[2009] 978-4-8158-0604-0

石川九楊著

近代書史

A4 判・776 頁・18,000 円

東アジアの文化の根底をなす「書」は、近代にいかなる軌跡をたどったのか。日本の近代・現代の書の歴史を、文学者や画家など知識人の書跡、生活者の日常書字や印刷文字までも含めて、表現された書の丹念な解説により初めて全体として捉えた、絢爛たるライフワーク。大佛次郎賞受賞
[2009] 978-4-8158-0600-2

山中由里子著

アレクサンドロス変相

—古代から中世イスラームへ—

A5 判・588 頁・8,400 円

大王が征服した広大な地域に流布した伝承を、宗教・政治・歴史の分野にわたって、アラブ・ペルシアの多様なテキストにたどり、アレクサンドロスの多面的な寓意性を通してムスリムの精神史を浮かび上がらせる。日本学士院学術奨励賞、日本比較文学会賞、島田謹二記念学芸賞受賞
[2009] 978-4-8158-0609-5

小黒昌文著

ブルースト 芸術と土地

A5 判・308 頁・6,000 円

〈土地〉との絆／切断は芸術にとって何を意味するのか。絆を称揚するラスキンの思想を出発点に、国家主義的な時代を背景としつつも、独創的な小説美学をつくりあげたブルースト。その思考の足どりを、美術館やモニュメント、書物などの主題のうちにたどり、新たな言葉の生成に立ち会う。
[2009] 978-4-8158-0618-7

佐々木英昭著

サジェスチョン

漱石先生の暗 示

四六判・336 頁・3,400 円

「諸君私が夏目先生です」——吸引する謎、勧誘する人々、そのかしと思いがけぬ心、催眠術と感化の不思議……。 「恋」から「開化」まで、理論と実作を貫く独自の〈心〉をめぐる探究に、漱石文学の隠された〈鍵〉を見だし、同時代の知的文脈のなかでその世界性を明証する卓抜な論考。
[2009] 978-4-8158-0619-4

高田康成著

クリティカル・モーメント

—批評の根源と臨界の認識—

四六判・466頁・3,800円

相対主義という時代の趨勢に精神をゆだねるままでよいのか——。西欧近代からその伝統へと遡り、俗語文学と古典、政体と主体、キリスト教と異教のトボス、人文主義と国家、歴史と他者、の諸局面で、「臨界」の認識を跡づけることにより、「批評」の根源的な力を回復する。

[2010] 978-4-8158-0630-9

ミツヨ・ワダ・マルシアーノ著

デジタル時代の日本映画

—新しい映画のために—

A5判・294頁・4,600円

デジタル技術は映画の製作・流通・受容を劇的に変え、日本映画をグローバル市場に押し出した。Jホラーやアニメーションからドキュメンタリー・民族映画まで、作品に即してメディア収束下の新たな映画文化を捉えるとともに、「トランスナショナル」の実像を見つめる画期的な現代映画論。

[2010] 978-4-8158-0657-6

森 雅秀著

チベットの仏教美術とマンダラ

インドの伝統を汲む長い歴史と多様性をもち、「聖なるもの」を独特のかたちで表現するチベット美術。その知られざる豊饒な世界を、学際的視野から包括的に捉え、アジアの仏教美術と文化史のなかに位置づけた画期的労作。未発表作品を含むカラー写真を中心に多数の貴重図版を掲載する。

[2011] 978-4-8158-0670-5

B5判・396頁・12,000円

水野千依著

イメージの地層

—ルネサンスの図像文化における奇跡・分身・予言—

「迷信」に満ちたイメージの力を無視することなく、人々の痕跡や文化の記憶が織りなす複雑な地層に光をあて、ルネサンスの多元性を蘇らせた「イメージの歴史人類学」の試み。サントリー学芸賞、花王芸術・科学財団「美術に関する研究奨励賞」、フォスコ・マライニ賞受賞

[2011] 978-4-8158-0673-6

A5判・920頁・13,000円

伊藤大輔著

肖像画の時代

—中世形成期における絵画の思想的深層—

肖像画とは、見たままの対象の描写なのか。院政期に変容する絵巻物との連続性から、似絵や「明恵上人樹上坐禅像」などの肖像画をとらえることで、その深層に形成された思想の言葉の次元を明るみに出す。中世へと向けて大きく転換していく社会にあって、絵画は何を語り出そうとしたのか。

[2011] 978-4-8158-0682-8

A5判・450頁・6,600円

アントワヌ・コンパニオン著 松澤和宏監訳

アンチモダン

—反近代の精神史—

フランス革命を契機に現れ出た〈アンチモダン〉の系譜をたどり、近代人を魅了したその思想の核心に迫る。反革命、反啓蒙思想、悲観主義、原罪、崇高、罵詈雑言といった多面的な相貌の本質を明らかにするとともに、ド・メーストルからバルトにいたるもう一つの近代精神史に光をあてる。

[2012] 978-4-8158-0684-2

A5判・462頁・6,300円

坪井秀人著

性が語る

—20世紀日本文学の性と身体—

性の政治性を問題化することをフェミニズム批評と共有しつつも、思想の道具化を排し、20世紀日本文学が捉える性のすがたを、語る主体に焦点を当て、個々のテキストに即して描き出す。語り書く男性そして女性の、愉悦や葛藤を内包した声や身体を〈私〉へと奪還する試み。鮎川信夫賞受賞

[2012] 978-4-8158-0694-1

A5判・696頁・6,000円

堀まどか著

「二重国籍」詩人 野口米次郎

A5判・592頁・8,400円

長谷川雅雄／辻本裕成／
ペトロ・クネヒト／美濃部重克著

南山大学学術叢書

「腹の虫」の研究

—日本の心身観をさぐる—

A5判・526頁・6,600円

阿部泰郎著

中世日本の宗教テキスト体系

A5判・642頁・7,400円

木俣元一著

ゴシックの視覚宇宙

A5判・486頁・6,600円

トーマス・ラマール著 藤木秀朗監訳 大崎晴美訳

アニメ・マシーン

—グローバル・メディアとしての日本アニメーション—

A5判・462頁・6,300円

山田昭廣著

シェイクスピア時代の読者と観客

A5判・338頁・5,800円

稲賀繁美著

絵画の臨界

—近代東アジア美術史の極限と命運—

A5判・786頁・9,500円

またの名をヨネ・ノグチ。沈黙の言葉を英語でつづり日本文化の紹介や諸芸術の融合を試みながら、「戦時メガフォン」として文学史から消された「世界の詩人」の生涯・思想・作品を、初めてトータルに明らかにした知的伝記。東西の文化翻訳への志はなぜ挫折したのか。サントリー学芸賞受賞
〔2012〕978-4-8158-0697-2

「虫が知らせる」「虫の居所が悪い」といった表現の根底には、日本特有の「虫」観がある。心と身体、想像と現実のはざまに棲み着いた「虫」の多面的な姿を、かつての医学思想、文芸作品、民俗風習などを横断的に読み解くことで明らかにし、日本の心身観を浮彫りにしたユニークな研究。
〔2012〕978-4-8158-0698-9

文字、図像、儀礼を含む広大な領域を「宗教テキスト」の視座から展望し、聖徳太子伝から仏教儀礼、聖教、神祇まで、中世世界の深層に潜む豊穣なる知の体系を解き明かした労作。日本中世史の焦点となる多様なテキストの複合・統合の果てに、〈聖なるもの〉はいかにして創出されたのか。
〔2013〕978-4-8158-0723-8

西洋中世において爆発的に拡大したイメージの世界は、何を顕わにし、それを観る者にいかなる経験や認識をもたらしたのか。黙示録写本、ステンドグラス、聖遺物など、イメージが切り拓いた広大な視覚宇宙を探究し、「見えるようになること」を根底から問い直したゴシック美術論。
〔2013〕978-4-8158-0724-5

アニメはどのようにテクノロジーと向き合い、その映像はいかなる思考を促すのか。また、トランスメディアの結節点として、いかなる運動を展開するのか。これらの問いを具体的な作品に即して探究し、従来の研究・批評を刷新する画期的なアニメーション論、待望の邦訳。
〔2013〕978-4-8158-0730-6

劇場へと通い、書物をめくる人々——。英国史上未曾有の「演劇熱」を、推定観客数や戯曲の刊行点数などから捉えるとともに、当時の戯曲本への書き込みを読み解き、読者のリアルな反応を探る。文化史および社会史の両面から、読者と観客の生きた姿に迫る労作。
〔2013〕978-4-8158-0748-1

「海賊史観」による世界美術史に向けて——。近代以降の地政学的変動のなかで、絵画はいかなる役割を背負い、どのような運命に翻弄されてきたのか。浮世絵から植民地藝術、現代美術まで、「日本美術」「東洋美術」の輪郭を歴史的に捉え、国境を跨ぐイメージと文化の相互作用を考察。
〔2014〕978-4-8158-0749-8

中野知律著

ブルーストと創造の時間

A5 判・492 頁・6,600 円

それが存在しない世界に——。科学的な実証知が勃興し、旧来の人文教養が失墜した世紀末の憂鬱の只中で、それでも「文学に賭ける」決断を下したブルースト。作家が格闘した、『失われた時を求めて』誕生以前の文の地形を明らかにすることを通して、その出現の意味を探る労作。

[2013] 978-4-8158-0754-2

橋本周子著

美食家の誕生

—グリモと〈食〉のフランス革命—

A5 判・408 頁・5,600 円

大革命後のフランス美食文化の飛躍をもたらした〈食べ手〉による美食批評は、レストランガイドの起源となる一方、それにとどまらない深遠な美食観を宿していた。『美食家年鑑』の著者グリモを通して、〈よく食べる〉とはいかなることかを探究した力作。渋谷・クロード賞 LVJ 特別賞受賞

[2014] 978-4-8158-0755-9

榎屋友子著

イスラームの写本絵画

B5 判・372 頁・9,200 円

書物の文化とともにさまざまな地域・王朝で花開き、驚くべき美の表現を達成してきたイスラームの写本絵画。その多様な作品世界はどのように読み解くことができるのか。科学書から歴史書・文学書まで、色彩豊かな図版を多数掲載し、イスラーム地域の絵画芸術を基礎から本格的に解説。

[2014] 978-4-8158-0760-3

服部正／藤原貞朗著

山下清と昭和の美術

—「裸の大將」の神話を越えて—

A5 判・534 頁・5,600 円

芸術と福祉の交差点へ——。「特異児童」や「日本のゴッホ」など、次々と綽名=イメージを与えられてきた美術家・山下清。その貼絵が大眾に愛され続ける一方、芸術の世界にも福祉の世界にも落ち着く場所のなかった彼の存在を通して、昭和の美術と福祉と文化の歴史を新たに問い直す。

[2014] 978-4-8158-0762-7

千々岩靖子著

カミュ 歴史の裁きに抗して

A5 判・340 頁・5,500 円

植民地に生まれ地中海を跨いで活躍した『異邦人』の作家は、なぜ、いかにして歴史に抗ったのか。『最初の人間』に至る小説創造と、アルジェリア時代や戦中・戦後に展開された政治的思索を合わせ捉えることで、歴史と非-歴史の境界で思考し続けたカミュの軌跡を鮮やかに照らし出す。

[2014] 978-4-8158-0768-9

一柳廣孝著

無意識という物語

—近代日本と「心」の行方—

A5 判・282 頁・4,600 円

フロイト精神分析や「無意識」の受容は、日本における「心」の認識をどのように変化させたのか。民俗的な靈魂観と近代的な心身観がせめぎあう転換期を捉え、催眠術の流行や文学における表象をも取り上げつつ、「無意識」が紡ぎ出した物語をあとづける「心」の文化史。

[2014] 978-4-8158-0772-6

北村 洋著

敗戦とハリウッド

—占領下日本の文化再建—

A5 判・312 頁・4,800 円

アメリカ映画を抱きしめて——。占領政策の一環としてハリウッド映画を利用した GHQ と、その到来を熱烈に歓迎した日本人。両者の関係を多面的な交渉のプロセスと捉え、検閲・配給・宣伝をめぐる様々な試行錯誤から、ファン文化の形成まで、熱狂と葛藤に満ちた戦後占領史を描き出す。

[2014] 978-4-8158-0775-7

山中由里子編

《驚異》の文化史

—中東とヨーロッパを中心に—

A5判・528頁・6,300円

アレクサンドロスが征伐した伝説の巨人から女だけの島まで、たえず人々の心を魅了してきた《驚異》。旅行記や伝承が語り、彫刻や写本絵画が示すその姿は、人間の飽くなき好奇心について何を教えてくれるのか。中世の「黄金時代」以来の精神史を細やかかつ大胆に描き出す。

[2015] 978-4-8158-0817-4

木村 洋著

文学熱の時代

—慷慨から煩悶へ—

A5判・320頁・5,400円

政治の季節が終わり、蘇峰が新たな理想を求め、独歩が無名の人民の経験を「記憶せよ」と呼びかけるうちに、文学は切実な営みとして「発見」された。内面の告白や青年の煩悶を正面から受け止め、経世の世にあって人生を問いかけていった知識人の挑戦を描き出す。サントリー学芸賞受賞

[2015] 978-4-8158-0821-1

稲賀繁美著

接触造形論

—触れあう魂、紡がれる形—

A5判・484頁・5,400円

「触れる」ことで作品は紡がれ、「接触」によって思想や文化が「写り／移り」を遂げる。彫刻・陶藝などの立体作品から建築、さらには翻訳の領域まで、異質なるものが触れあうときに何が生まれるのか。「接触造形」の視点から近現代の藝術や文化を探究し、未踏の領野へと歩み出す。

[2016] 978-4-8158-0831-0

飯田祐子著

彼女たちの文学

—語りにくさと読まれること—

A5判・376頁・5,400円

女性作家は〈女性〉を代表しない——。〈女性〉へと呼びかけられ、亀裂の感覚を生きつつ何を語ってきたのか。田村俊子、野上弥生子、宮本百合子、尾崎翠、林芙美子、円地文子、田辺聖子、松浦理英子、水村美苗、多和田葉子など、複数の読み手に曝されたマイノリティ文学として読む。

[2016] 978-4-8158-0835-8

水野さや著

韓国仏像史

—三国時代から朝鮮王朝まで—

A5判・304頁・4,800円

豊かな造形を誇り、独自の美を示して華ひらいた朝鮮半島の仏像史を、わが国で初めて包括的かつ平易に紹介。古代から近世までの流れを一望にするとともに、日本・中国の作例との深い関連性も縦横に捉えて、東アジア圏での交流の重要性を浮彫りにする。日本の仏像の理解にも必携の一書。

[2016] 978-4-8158-0847-1

今井祐子著

陶芸のジャポニスム

A5判・760頁・7,800円

見出された新たな美——。ヨーロッパからアメリカまで、多様な作家・美術商・収集家らを魅了した「陶芸のジャポニスム」。海を越えた日本陶磁や陶器書を手がかりに、美意識や造形が大きく転換・深化していくプロセスを跡づけ、グローバルな芸術文化史を描く。ジャポニスム学会賞受賞

[2016] 978-4-8158-0854-9

鎌田由美子著

絨毯が結ぶ世界

—京都祇園祭インド絨毯への道—

A5判・608頁・10,000円

京都祇園祭の山鉾に飾られている「幻の絨毯」はどこで制作され、いかにして日本にもたらされたのか。絨毯の特徴から流通・受容までを解明し、魅力的な図版とともに、日本、インド、欧州を結ぶ絨毯の道を辿る、美のグローバル・ヒストリー。日本学士院学術奨励賞、太平正芳記念賞受賞

[2016] 978-4-8158-0855-6

阿部泰郎著

中世日本の世界像

A5判・604頁・6,800円

芸能から魔界まで——。絵巻や曼荼羅、物語や儀礼のなかで生動する男女・仏神・異類たち。それらの存在を支えた世界像とはいかなるものだったのか。説話や音楽から、性や童子、さらには聖地・霊地まで、時代とともに揺れ動く文化の諸相を一望し、中世の世界を多面的にとらえた渾身の書。

〔2018〕978-4-8158-0902-7

北浦寛之著

テレビ成長期の日本映画

—メディア間交渉のなかのドラマ—

A5判・312頁・4,800円

「テレビ vs 映画」を超えて——。高度成長期、テレビの台頭で映画は斜陽を迎えたのか。テレビ向けフィルム映画の試みやお色気・任侠映画の流行、ワイドスクリーンという新機軸、時代劇やメロドラマの変遷など、映像の新時代の幕開けを描き、現在につながる大転換の実像を明らかにする。

〔2018〕978-4-8158-0905-8

吉武純夫著

ギリシア悲劇と「美しい死」

A5判・384頁・5,400円

死の美学、それとも……。三島由紀夫も憧れた古代ギリシアの「美しい死」。ホメロスやプラトンから葬礼演説までの遺されたテキストを踏まえつつ、戦死を称える詩人の言葉が悲劇作品においてたどった運命を丹念に読み解き、魅惑と苦悩のあいだに浮かび上がるその実像を描く。

〔2018〕978-4-8158-0906-5

範 麗雅著

中国芸術というユートピア

—ロンドン国際展からアメリカの林語堂へ—

菊判・590頁・11,000円

中華文人の生活芸術か、想像された国民芸術か。第二次世界大戦前、中英の協力によって開かれ東西文化交流の転換点となった一大展覧会を軸に、日本の影響深いウェイリーらの研究から、在英中国知識人の活動、パール・バックの後押しした林語堂の傑作まで、中国芸術とは何かを問う力作。

〔2018〕978-4-8158-0909-6

松井裕美著

キュビズム芸術史

—20世紀西洋美術と新しい〈現実〉—

A5判・692頁・6,800円

絵画、彫刻、文学、建築などの作品においても、理論や批評の言説においても、多面的かつ国際的な拡がりをもつキュビズム。「幾何学」的表現の誕生・深化から、二度の世界大戦を経て、歴史的評価の確立へと至る曲折に満ちた展開を、美術と〈現実〉との関係を軸に描ききる。

〔2019〕978-4-8158-0937-9

藤木秀朗著

映画観客とは何者か

—メディアと社会主体の近現代史—

A5判・680頁・6,800円

民衆・国民・民族・大衆・市民——。映画館でシネマを観る「数」であるにとどまらず、映画や社会と多様な関係を取り結ぶ人々のあり様を、大正期から現在まで、社会主体をめぐる言説に注目することで、変容する政治やメディア環境との交渉のうちに浮かび上がらせた、映画観客100年史。

〔2019〕978-4-8158-0938-6